

研究指導の概要

■ 生物資源科学学位プログラム

【課程：博士前期課程】

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	春	A	新入生オリエンテーションを行い、本学位プログラムにおける人材養成目的および3つのポリシーについて説明を行う。また、履修方法・修了要件の説明を行い、履修計画書を作成して提出させ、コンピテンス達成度評価シートの記載方法も説明する。その後、INFOSS情報倫理の説明を行い、受講を徹底させ誓約書の提出を促す。
		B	さらに、研究指導教員を中心とした2名以上の教員からなるアドバイザー・コミッティを設置し、課題検討会を開催して、各学生の研究計画の妥当性や問題点を整理する。必修科目として「生物資源科学研究法」または「国際生物資源科学研究法」を履修させ、生物資源科学に関わる諸問題解決のための基礎および専門的知識と技術を修得させる。また、各領域の特別研究ISにおいて、生物資源科学に関する研究課題を設定し、その研究課題を解決するための専門的な研究法や実験法、
		C	データのまとめ方や解析法を学び、研究計画を立案する。さらに、各領域の演習ISにおいて、生物資源科学に関する論文を調査、講読させ、論文読解能力を高めるとともに客観的な評価を行う能力を養成する。
	秋	A	各領域の特別研究IFにおいて、上記で設定した研究計画に沿って実際に研究を遂行し、取得した実験データの解析を行う。研究の進捗状況に関して定期的に報告を行い、討論を通じて体系的な思考力、科学的・論理的な考察力を修得する。また、研究者に必須である研究倫理教育についても、研究の進行に合わせ適宜行う。各領域の演習IFにおいて、引き続き生物資源科学に関連する分野の優れた著書や学術論文等を収集・講読し、その中から適切な文献を選び論文紹介を行い、そのテーマに関する討論を通してその研究成果を適切に評価する能力を養う。また、各自が取り組む修士論文の研究課題との関連性についても議論を深める。さらに、秋学期末までにコンピテンス達成度評価シートを提出させ、研究指導教員と面談等を行い、達成度について確認する。
		B	
		C	

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
2 年 次	春	A	各領域の特別研究IISにおいて、自らの研究課題に取り組み、定期的に研究の進捗状況に関する報告を行い、討論を通じて体系的な思考力、科学的・論理的な考察力を修得し、研究成果のまとめ方や論文作成方法を学ぶ。各領域の演習IISにおいて、引き続き生物資源科学関連分野の優れた著書や学術論文等を収集・講読し、既存研究の内容を理解し専門知識を深めるとともに、その研究成果を適切に評価し、自らの視点で科学的・論理的に考察する能力を養う。また、各自が取り組む修士論文の研究課題との関連性について、実験手法や結果と考察について読み込んだ上で議論を深める。さらに、アドバイザー・コミッティ教員による中間評価を実施し、口頭試問を通じて各学生の研究進捗度を審査する。評価は、①生物資源科学に関連して博士前期課程に相応しい基礎学力を有しているか、②所属する分野において修士論文研究を推進するための基礎的研究力（技術的知識を含む）を有しているか、③学位取得に向けて適切に研究が実施されているか、3つの観点から行う。
		B	
		C	
	秋	A	各領域の特別研究IIFにおいて、自らの研究課題に取り組み、定期的に研究の進捗状況に関する報告を行い、討論を通じて体系的な思考力、科学的・論理的な考察力を修得し、研究成果を修士論文としてまとめる。各領域の演習IIFにおいて、引き続き生物資源科学の関連分野に関する優れた著書や学術論文等を選んで論文紹介を行い、討論を通して科学的・論理的思考能力を身につけ、自らの視点で考察することで修士論文作成にも役立てる。2年以上の在学と修了に必要な単位以上の取得が見込まれる者について、学位論文の審査および最終試験を行う。主査および2名以上の副査からなる学位論文審査委員会が、学位論文の審査と口頭試問を行い、本学位プログラムのディプロマポリシーに照らして修士（農学）学位に相応しい能力を有するか審査を行う。また、コンピテンス達成度シートを確認し、論文構成や研究能力・知識が修士（農学）学位の水準に達しているかを評価する。さらに、修士論文公開発表会を行い、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を修得する。
		B	
		C	